ひろば

おめでとうございます
伊藤とよさん・子安はつさん
…数え100歳…

このほど数え100歳を迎えられたのは、中台にお住まいの伊藤とよさんと、於幾にお住まいの子安はつさん。

1月9日、県知事代理の笠原山武支庁長と實川町長から祝詞と小豆色のちゃんちゃんこなどの記念品が、それぞれ贈られました。

とよさんは明治31年8月11日生まれで、子ども5人、孫11人、ひ孫10人、目や耳、足なども丈夫で、毎日テレビを観るのを楽しみにしています。

一方はつさんは明治31年9月29日生まれで、子ども4人、孫8人、ひ孫13人、目がとても丈夫で毎朝新聞を読んでいるほど。

お二人とも顔の色つやがよく、健康の秘訣は「好き嫌いせず何でもよく食べること」だそうです。

いつまでもお元気でお過ごしください。

同じく子安はつさん

お祝いの“ちゃんちゃんこ”を着た伊藤とよさん

奉納神楽の第1座“天狗の舞”

衣装を新調して厳粛な舞
屋形里神楽

1月19日(日)、屋形の四社神社で里神楽が奉納され、地域の方々や上堺地区の小学生、保育所の児童など大勢の人たちが厳粛な舞を見学しました。

この四社神社の奉納神楽は、天狗(猿田彦命)・臼女命・八幡神など古代の神々が舞踊り、五穀豊穣家内安全を祈って奉納されるものですが、昭和30年代以降、農村の生活様式の変化とともに見物人の数も減少の一途をたどり、存続が危ぶまれる時期もあったようです。

しかし、昭和45年10月に氏子有志によって保存会が結成されてからは、現在まで中断することなく毎年1月の第3日曜日に奉納されています。

〝屋形里神楽〟を支える地域のみなさんは、昨年12月に平成8年度自治宝くじ助成事業によって、神楽衣装一式とはんてん25着を新調。今回の奉納は真新しい衣装で行われました。今後も、由緒ある伝統芸能を後世にまで伝えていただきたいと思います。

年々増える来訪者
屋形海岸 初日の出

新しい年を迎え、各地の神社・仏閣に初詣に出かけられた方も大勢いたことと思いますが、元旦の屋形海岸にも初日を拝もうと、町内外から家族連れや若者のグループなどたくさんの人たちが訪れました。

午前6時50分、水平線にかかる雲が真っ赤に染まり始めると花火が打ち上げられ、かがり火で暖をとっていた人たちも一斉に東の空を注目。雲間からゆっくり昇る初日を思い思いに拝んでいました。

元旦の屋形海岸では、海岸観光の活性化を図ろうと、4年前から町観光協会、商工会、生き活き横芝まちづくり推進協議会のみなさんによる“あま酒サービス”が行われており、来訪者も年々増加。今年は昨年を更に上回る約2000人が訪れました。

水平線が赤く染まり始めると
間もなく初日が顔を覗かせました